

# 矢放つも当たたるも同じ役者

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

## はい上がる人

### わたしの歩跡

会社勤務の傍ら、土日は松竹京都撮影所(京都市右京区)で大部屋俳優として活動を始める。スター俳優らの背景で一瞬



口ケバスを前に本人提供

だけ映るのが出番で、作品に名前も出ないし、台本ももらえない。無名の存在だ

仕出し(エキストラ)の出番は、ト書きには絶対書いてないんです。朝8時に行って、いつ出番があるかわからなくて、ひたすら待つんです。タバコ吸う人はまずは一服ですね。おぼさん連中は「あめちゃんとうやいせんべいもあるぞ」とって、べらべらと世間話してらるんです。雰囲気はゆるくなってきました。

「出番がない日もある。助監督の腹一ツだ」

助監督が場面を見て「ここに手代1人、そこに大工」とか呼び出すんです。仕出しを上手に動かせるかどうか助監督の腕のみせどころで、それができるようになってくると、監督への道が開かれて。話の展開の持ちっで行き方と、仕出しの動かし方に何か通じるものがあるんじゃないかね。

最初は訳がわからず、待つだけだったんですけど、慣れてくると助監督の傍にいて「あそこ、大工おっとおかしいやろ。俺行く、俺行く」。絵の中に映り込んでましたね。「その大工、さっきのカットで、行商で映ってるやろ。あかんあかん。お前

## 日当6500円、無名の存在

よう目立っとんやから」ってカメフラマンに外されたり。

僕の日当は最低ラインの6500円でした。メイクして衣装をつけたら、出番のあるなしにかかわらず日当が付く。だからね、「他の奴やらせ」って出たからへん先輩方がいて。「きょうも楽やったなあ」って帰るんです。東京から来た俳優さん以上

に大きなイスに座って、名前の通った人が来ても、「あいつの刀の差し方おかしい」とって。僕が「何々さん、ちょっと刀の差し位置が違ってます」って伝えに行くんです。時代劇の作法に詳しいのを知っておられて、俳優さんは「そうですか。すみません」ってへこへこしてくれるんです。

1日に何回出ようが、6500円です。面白いのは4回替替えたら、出番のあるなしにかかわらず、2日分出るんです。助監督が「もう大工出てこえへんし、ごめん、行商人に着替えておいて」「はい」。助監督もものすごく気がついてますわ。「何回替替えた?」「何回やったか

なあ」ってとほけるんです。4回替替えたら、出番表に「たぶり」と書けるんですよ。僕なら1万3000円になる。

一つの作品でも、仕出しは役柄を替えたら何度でも出られるんです。東京テレビのお正月の12時間時代劇(1995年)でしたね、老麻伸さん演じる織田信長が岐阜の斎藤道三(渡辺哲さん)に会いに行く場面で、僕は信長の馬のくつわを取ってるんですけど、山の中から信長の様子をのぞく道三から「あれが信長か」って尋ねられる家臣もやはり僕で、「はい、はい」とか答えるんです。

もっとすごい先輩がいて、合戦で矢をバツと放つ場面をワンシーン抜いてもらって、作品見たら、うわーって矢が当たったのは、その人やったことがありまして。「あの人、そこまでやったんやぞ」って。注意深い人

やったらすべわかります。時代劇は後ろで見ている方がよっぽど面白いですね。

【エリア編集委員・大澤重人】

二つづく、水曜掲載

### 本番の「緊張感イイ」

ドンペイ  
さんがフェ

イスブックで発信中。「ボランティアエキストラを趣味にしていますが、『本番』の声がかかった瞬間の緊張感がとても好きです」という読者の感想に、ドンペイさんが「あの緊張感はいいですね。カチン」が鳴った瞬間、頂点に達し何か降りてきます」と返信しました。